

2012.6.9

津波が来たら… 川が氾濫したら…

「避難マップ」年々充実

熊本市西区の高橋校区自治会(鴻池紘会長)が、災害時に役立ててもらおうと「避難マップ」の改良を重ねている。今回は津波時の避難場所を加筆し、5月に校区全世帯に配布した。

熊本市・高橋校区自治会



高橋校区自治会が改良を重ねている「避難マップ」

同自治会は2009年、校区内を流れる坪井川の氾濫を想定して避難マップ(A4判、カラー)を初めて作製

消火器、井戸の場所も

「当初は道路地図に通学路や『子どもひなんの家』などを記した簡単なものだった」と鴻池会長(71)。その後、水道が止まったときのことを想定し、使用可能な井戸の場所などを追加。自主防災クラブが10年に、道路脇など8カ所に設置した消火器の場所も書き加えた。

今回の改訂では、昨年の東日本大震災の教訓から、裏山や小学校など津波時の避難場所4カ所を加えた。鴻池会長は「これからも避難マップの内容を充実させ、災害に強い町づくりを目指したい」と話している。

(高見伸)



道路脇に設置された消火器の前に立つ高橋校区自治会の鴻池紘会長
=熊本市西区高橋